



プレスリリース

【照会先】

平成 28 年 2 月 3 日

【照会先】

企画・情報部企画課

課 長 福田 克広 (2140)

国際協力室長 西村 陽子 (2148)

係 長 長根 淳哉 (2150)

(代表電話) 04-2995-3100

報道関係者各位

国立障害者リハビリテーションセンター

障害がある人々の移動に関する国際セミナーの開催 障害者の移動支援を考える ～人的支援等のソフト面を中心に～

国立障害者リハビリテーションセンターは、障害がある人々の移動を支える人的支援に焦点をあてた国際セミナーを開催いたします。

今回のセミナーではタイ、マレーシア、日本で障害当事者として障害がある人々の支援を行っている方々、観光の分野で障害がある人々のサポートを行っている団体、移動訓練の専門家等が、障害のある人々の移動を支える人的支援の取組みを発表するとともに、発表者の方々によるディスカッションを行います。

国際セミナー

- 1 テーマ：障害者の移動支援を考える - 人的支援等のソフト面を中心に -
- 2 日時：平成28年2月13日（土） 12：30～16：45
- 3 場所：東京国際フォーラム ホールD7
- 4 主催：国立障害者リハビリテーションセンター
(障害の予防とリハビリテーションに関するWHO指定研究協力センター（※）)
- 5 参加者：本テーマに関心のある方
- 6 言語：日本語、英語（日英同時通訳有）
- 7 参加費：無料

※ WHO指定研究協力センター：別紙参照

プログラム

12:30 開会挨拶

中村耕三 国立障害者リハビリテーションセンター総長

12:40~15:10 発表

1 「地域の中で生活するために」

Saowalak Thongkuay (タイ) サワラク トンカイ

DPI (障害者インターナショナル) アジア太平洋事務局地域開発担当官

DPI: Disabled Persons International (障害者インターナショナル)は世界130か国以上に加盟団体がある国際的 NGO の障害当事者団体である。本部はカナダ。日本には DPI 日本がある。アジア太平洋地域事務局はタイのバンコクにあり、Ms. Saowalak はタイ国政府から女性の人権活動に対する表彰を受けるなど活躍している。

2 「公共の場における障害がある人々への支援 - マレーシアのジレンマー」

Peter Tan Hua Choon (マレーシア) ピーター タン ホア チュン

障害平等研修フォーラム(DET) 国際コーディネーター

Disability Equality Training Forum(DET)は JICA (日本、国際協力機構) のプロジェクトの成果として組織された NPO である。障害がある人の完全参加と平等な人権を実現するために、障害に関する教育、啓発活動を実施している。世界30か国270名以上の研修指導者が所属している。Peter Tan 氏は DET の国際コーディネーターとしてマレーシア政府への助言等の活動もしている。

3 「公共交通における車いす乗客への『おもてなし』の課題と展望」

今福義明 Access-Japan 代表

米国での研修時に車いすで単独自力で交通機関を利用できた体験をもとに、日本の交通機関のバリアフリー情報等を発信する Access-Japan の代表として、バリアフリー新法の委員会に参加する等、行政や交通事業者との協議を行う活動と同時に、自らは年間500回のバス乗車の活動も行っている。

4 「視覚障害者の外出支援の現状と課題-フォーマル、インフォーマルな支援の組み合わせ-」

鈴木孝幸 社会福祉法人 日本盲人会連合副会長

日本盲人会連合は視覚障害者自身による自立と社会参加を実現するために組織された社会福祉法人であり、全国の60以上の視覚障害者団体が所属している。鈴木氏は副会長であると同時に、視覚障害者スポーツの普及活動や、様々な視覚障害の団体の組織化に協力する等、を行っている。

5 「バリアフリー観光で育つ心のバリアフリー～諦めない気持ちは人の心を変化させる～」
野口あゆみ NPO法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター事務局長

観光地として名高い伊勢志摩を訪れる障害がある人、高齢者等に様々なサポートや必要な情報を提供しバリアフリー観光を推進するNPO。他自治体からも伊勢志摩の取組みを学びに来ている。野口氏は事務局長として、啓発活動、情報発信にも取り組んでいる。

6 国立障害者リハビリテーションセンターからの発表

「頸髄損傷者に対する移動支援について」

清水 健 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局自立訓練部
主任理学療法士

「視覚障害者に対する移動支援について」

谷 映志 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局自立訓練部
主任機能訓練専門職

障害がある人々に医療、福祉サービスを提供し、障害に関わる研究、養成事業を行う国立の総合的施設。清水氏は理学療法士として現在は頸髄損傷者の機能訓練を行っており、谷氏は視覚障害者に必要な歩行、日常生活訓練等に従事している。

15:25～16:40 ディスカッション・質疑応答

16:45 閉会挨拶 飯島 節 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局長

(別紙)

世界保健機構（WHO）指定研究協力センターについて

国立障害者リハビリテーションセンターは、平成7年5月11日付で「障害の予防とリハビリテーション」に関して、WHO指定研究協力センターの指定を受けて以来、リハビリテーションの分野でWHO事業に協力をしてきた。

指定の協力事項

- 西太平洋地域の障害をもつ人々の質の高い保健、リハビリテーションサービス、スポーツへのアクセス向上のための知識や資源の開発についてWHOに協力する
- WHOに協力して、西太平洋地域の障害とリハビリテーションに関する能力開発活動を行い、優れた実践・経験を共有するための活動を行う
- 障害をもつ人々のニーズと権利についての意識を高め、理解を進める活動をWHOと共に行う

※ 世界保健機構（WHO）は、独自の研究機関を持たないため、世界の一流研究機関を、WHO指定研究協力センターに指定し、常に最新の医学知識を得ると共に、研究員の受入れ、専門家の派遣等WHO事業に協力を依頼している。
国立障害者リハビリテーションセンターは平成24年10月に5度目の指定（指定期間：4年）を受け、引き続きリハビリテーションの分野でWHO事業に協力している。